

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
47	川崎市立長沢中学校	杉山 達郎

学校教育目標	今年度の重点目標
1. 自分を見つめよう 2. 心身を鍛えよう 3. 規律を守り、責任を果たそう 4. 創造的な精神をみがこう	I 確かな学力が身につく学習活動の推進 1. 学習規律の確立 2. 教師の授業力向上 3. GIGA効果的な活用 II 安全で安心できる学校づくりの推進 4. 支援教育の推進 5. 信頼関係の構築 6. 居場所となる学校・学級づくり III 豊かな心づくりの推進 7. キャリア在り方教育の推進 8. 共生＊教育プログラムの活用 9. 人権、思いやりの心の育成 IV 地域・保護者との連携推進・学習環境の整備 10. 地域、保護者と共に取り組む教育活動 11. 教育環境の整備12.健康、安全教育の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	学習規律の確立	◎学校評価アンケートから、学校生活に必要なルールやマナーを守って生活していると回答した生徒が98%と多かった。 ◎教科部会において、地区研究授業、指導主事の話など必ず共有することが徹底できた。 ◎学習規律、学級規律をしっかり意識させることができたと感じている教員が多い。	・道徳、学級活動等の話し合い活動における共通ルールを構築する。 ・生徒の学ぶ意欲を高める指導と評価の一体化を図る。→校内外研修の充実。
2	教師の授業力向上	◎学校評価アンケートから、授業が楽しくてわかりやすいと感じている生徒は昨年と同じ88%だった。 ◎学校評価アンケートから、主体的に学習に取り組んでいると答えた生徒は昨年と同じ82%だった。 ★校内研修テーマを設定し、年3回指導主事や部会長を招いて研修したことはとても実りあるものだった。 ●忙しさもあり、空き時間に気軽に授業を見合うことがあまりできなかった。 ●生徒が主体となって取り組む授業力の向上に日々努める。 ※生徒が楽しい、わかると感ずることができる魅力ある授業を展開できるように教材研究や研修を積んでいく。	・教科総会、地区研究授業での他校の実践を参考に、教科部会や、学年会等で確実に情報を共有する。 ・ICTの活用や生徒の発想や考えを基にした授業展開を工夫する。そのためには多くの授業を見る必要がある。 ・研修テーマを決めて全員で取り組んでいくことは効果的であるとする。 ・教員同士が気軽に授業を見合えるような仕組みづくりを検討していく。
3	GIGA端末の効果的な活用	◎学校評価アンケートから、授業中GIGA端末を有効に活用していると感じている生徒が昨年は91%今年94%に増えた。 ◎欠席者がオンライン配信授業に参加することができた。 ◎他者との意見交換や考えを共有することができた。 ●教員全員が効果的に活用できるようにする。	・GIGA構想ステップ3の実現に向けて、各教科等の地区研究会の際に手法を取得し活用スキルを向上させる。 ・一人教科担当への支援の充実として指導主事との連携を図る。
4	支援教育の推進	◎学習室担当者会議等で情報を共有し、支援の改善、適切な対応をできるようにしている。 ◎子に応じた学習室の活用ができていく。 ◎不登校生徒へオンラインによる授業参加。 ◎不登校生徒や課題を抱えている生徒対象の進路相談会を開催することができた。 ◎田園調布学園大学の生徒に支援級へのサポートを依頼し、中大連携を図った。 ●支援を必要とする生徒への積極的なアプローチと保護者との共通理解。 ●不登校となりそうな初期対応のあり方を再検討する必要がある。 ●不登校生徒のどことも繋がっていない生徒への適切な支援。	・COを中心に、学習室のより効果的な運営を検討していく。学習室担当者会議での議案としてあげる。 ・通常級の中にいる生徒の困り感を積極的に見取り、保護者と共に適切な支援の在り方を検討していく。 ・不登校生徒に対して、適切な学習支援、登校支援の在り方を検討していく。また、外部機関との連携を図る。 ・不登校となりそうな初期の会議や初期対応の在り方を、年度初めの生徒理解研修で全職員で共通理解を図る。 ・外部機関との連携を図る。
5	信頼関係の構築	◎年度初めの担任と生徒の教育相談を行い、話しやすい関係づくりに努めた。 ◎学校評価アンケートから悩みや相談事等を先生に相談する生徒が昨年は72%今年75%に増えた。 ◎三者面談など、勤務時間内での実施のお願いをすると、ほとんどの保護者からご協力いただいた。 ●相談時間の確保 ●勤務時間外の対応	・常に「寄り添う」「聴く」「受け止める」「一緒に考える」を胸に丁寧に対応していくことを心がける ・教職員から積極的に話しかけ、常に話しやすい関係づくりに努める。 ・教育相談期間ではなくても、毎日が教育相談という気持ちで接していく。 ・教職員の勤務時間を周知し、引き続きご理解、ご協力をいただく。
6	居場所となる学校・学級づくり	◎学校評価アンケートからクラスに役割があり責任を果たしている生徒が昨年は85%、今年87%であった。 ◎学校評価アンケートからクラスに安心できる友達がいる友達がいて助け合って生活している生徒が昨年は94%、今年96%であった。 ◎学校評価アンケートから、学級活動や諸行事で友達とより良い関係をつくるようにしている生徒が昨年は90%、今年94%であった。 ▲生徒主体の行事の企画運営。一緒に考えていく。 ●学級に居場所を感じることができない生徒への対応。	・担任が一人ひとりを大切にしたい所属感を味わわせる学級経営を行う。 ・効果測定を学級経営にいかす。 ・全職員が生徒一人ひとりに達成感を持たせるよう、主体的な活動を支えることを再度確認する。 ・生徒主体の特別活動を実践していく。 ・COと連携を図り、不登校生徒の早期対応を学年主任会議、学年会等で検討していく。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
7	キャリア・在り方教育の推進	体験的な活動を通して社会的な自立に向け、必要な能力と態度を育成する。 ・SDGsの取組・職業講話・職場体験・進路学習	◎学校評価アンケートから、あいさつをするように心がけている生徒が昨年は94%、今年は95%であった。 ・SDGsの視点で1、2年生は体験活動ができた。 ・働き方改革として、2年生の職場体験受入れ事業所の折衝を業者に依頼し、スムーズに実施することができた。	・より効果的な体験学習を企画、運営していく。 ・学年主任が連携を図り、次の学年へと繋がる体験学習にしていく。 ・キャリアノートを連携のツールとして、保護者と共通理解を図り指導を行っていく。
8	共生＊共育プログラムの活用	効果測定による生徒の変容を的確に捉え、学級経営の改善を図るとともに、共感的な人間関係の構築を目指す。	◎学校評価アンケートから、他者に認められ様々な活動に自信を持って取り組んでいる生徒が昨年は83%、今年は85%であった。 ◎学年会でケース検討の時間を確保した。	・年間7時間の共生＊共育プログラムと年3回の効果測定の時間の確保が難しくなっているので、工夫して実施していく。 ・引き続き、学年会で分析結果について協議する時間を確保していく。
9	人権・思いやりの心の育成	人権尊重教育を大切に、いじめのない、SOSを出しやすい学校風土を構築する。 ・子どもの権利条約を活用した人権尊重教育 ・読書活動を通して豊かな心を育む。	◎学校評価アンケートから人権を尊重し暴力やいじめをしないと答えている生徒がとて多い。 ●読書を通して様々な考え方を知ったり感動を味わうことができる生徒が昨年度より少し減った。 ●SNSによるトラブルが毎年おこる。	・日常から生徒の変化を積極的に察知し、学校として迅速に対応する。 ・記録をとること(フォーマットをつくり正確に)と経過を追うことを指導の基本として、組織で対応していく。 ・朝読書を実施しているが、10分と短い、が継続して取り組んでいく。 ・SNSによるトラブルは、保護者と連携を図り、場合によっては関係機関と連携して支え、指導していく。
10	地域・保護者と共に取組む教育活動の推進	・PTAや地域の行事に協働して取り組む。こども文化センターとの連携。 ・地域教育会議やこども文化センターとの連携。 ・積極的に学校の取組を発信し、家庭、地域、小学校等との連携を促進することで理解と協力を得ながら教育活動を展開する。 ・学校だより・学級だより・ホームページ・メール配信 ・オープンスクール・各種行事参観・各種説明会・たぬきフェスティバル・たぬきチャンネル等	◎PTAの在り方について共通理解を図り、様々な活動に協働することができた。 ◎地域教育会議の行事である「たぬきフェスティバル」に生徒、教職員が全面的に協力して取り組むことができた。 ◎PTAの役員会を平日に実施した。 ●PTA任意化に伴い会員数の減少。 ●小さいお子さんがいる教職員の協力体制。 ●学校評価アンケートから、地域の人と繋がっていてお世話になっていると感じている生徒が昨年度より少し減った	・学校と保護者、地域が協働して子どもを支えること的主旨に基づき、全教職員が日頃から良好な人間関係づくりに努める。 ・たぬきフェスティバルの日を課業日にして行うことにより、教職員、生徒の協力体制ができると感じた。 ・ペーパーレス化の併い、学校だより、保健だより、PTA通信等、ミマモルメで配信したが、どれだけの方に読んでいただいているか心配である。 ・PTAの必要性、無理のない参加、生徒のより充実した学校生活のために等をお話しし、会員数の確保に努める。
11	教育環境の整備	・安心して入学できるように小中連携を図り、中1ギャップの防止に努める。 ・生徒の安全を保障するため、防犯や経年劣化に伴う不具合等の早期改善に努める。 ・行政と連携し、PC、Wi-Fi環境の整備に努める。	◎小中連携事業として、夏季休業中に小中教職員の交流を行った。また、小学生の中学校体験を実施し、入学前に中学校生活を知ることができたと思われる。 ◎学校評価アンケートから、学校は安全で安心して学びやすい環境であると感じている生徒がとて多い。 ●予算の関係ですぐに修繕できない箇所がある。	・よりよい中学校体験ができるように検討をしていく。 ・日常的に点検、早期発見、早期改善に努める。 ・行政と連携を図り、早期に営繕修繕していけるように努める。
12	健康・安全教育の推進	・諸活動でのけが等の対応を養護教諭、保護者と連携を図りスムーズに行う。 ・生徒にとって充実した活動となるよう保護者と共通理解を図った部活動の運営。 ・震災、火災等の避難訓練の実施 ・SNSを含む情報モラルの指導	◎学校評価アンケートから、長沢中学区は安心して生活できる環境であると感じている生徒が昨年は92%、今年は93%であった。 ◎避難訓練で地区別班での会議、下校訓練を行い、防災、防犯の視点で地域を知ることを実施した。 ◎行政と連携を図り、危険箇所の営繕修繕を迅速に行うことができた。 ●部活動の顧問と保護者の連携。 ●SNSの適切な使い方については課題である。	・けがが起こった際の迅速な対応と連絡。迅速な災害報告書の提出。家庭への連絡。 ・ガイドラインを遵守した部活動の運営。 ・部活動顧問と保護者の共通理解を図りながらの運営を行う。 ・SNSに関しては、保護者と連携を図りトラブル防止に努めていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>【良い点】</p> <p>◎あいさつやルールマナーを守る規律正しい生徒が多い。◎こども文化センターもこどもの居場所として活用され、使い方も特に問題はない。◎たぬきフェスティバルの実施日を課業日にし、生徒、教員の協力体制が構築できた。◎学校やPTAの情報をホームページやミマモルメを活用して発信することができた。◎小中連携事業、職場体験など復活して行うことができた。◎生徒会本部役員を中心として、生徒主体の校則の見直しを図ることができた。</p> <p>◎学校運営協議会で喫緊の学校課題に対し、共通理解を図ることができた。(体育祭平日開催など)</p> <p>【課題を要する点】</p> <p>●PTAの任意化に伴い、役員、各委員会のなり手が減少している。 ●部活動地域移行の話題が出たが、様々な課題を共有した。生徒は、先生との関係性も重視している。(先生に指導してもらいたい)</p>	<p>「生徒のための学校生活」「生徒の思いがこもった行事」になるよう、生徒と一緒に考えて企画運営していくように教職員に話をした。それと同時に、教職員の働き方改革の視点も視野に入れ学校運営を行ってきた。今年度は「自分の考えを持ち、豊かに表現し合える生徒の育成を目指した授業づくりをテーマとして年3回の校内研究授業を実施し、指導主事や部会長を招いて指導をいただいた。教職員共通のテーマを設定し取り組んでいくことは大変有意義で効果を得られたと感じている。また、特別活動研究推進校として、「学級会活動」の研修を講師、指導主事を招き指導をいただいた。学校運営の2本の柱「一人ひとりを大切にしたい学校」「安全で安心できる学校」の実現に向けて取組成果と課題を認識して次年度も学校運営をしていきたい。</p> <p>■年度初めの教育相談→新しい担任と話しやすい関係づくりに努めることを目標に来年度も実施。継続していきたい。 ■支援教育の推進→田園調布大学との連携拡大を図る。部活動外部指導者、教育ボランティアの拡大。自然教室指導員など。 ■不登校生徒への支援→校内のCOやSCを含め、外部機関等も連携を図り、適切な対応が課題であると感じている。また、早期発見、早期対応の再確認を行う。 ■学習会の実施→テスト前、長期休業中等、学習支援を行っていく。 ■人権尊重教育を推進し、互いに認め合い、支え合える関係をつくり、安心して学校生活を送れるようにする。 ■より生徒主体となる学校運営を目指す。 ■教職員の不祥事等の未然防止に努める。(情報の共有、点検、事あるごとに確認等) ■PTAの任意化に伴い、会員の確保に努める。</p>